

保健通信 (夏休み号)

平成27年7月17日
益田翔陽高等学校 保健室

マダニ (写真はフタゲチマダニ)



「マダニ」に咬まれないように注意！！

「マダニ」の活動は春から秋にかけて盛んになります。
本校農場でも「マダニ」がみつかっています。駆除等で全滅させるのは難しいため、森林、草むら、藪に入る場合には咬まれないように十分な予防対策が必要です。

「マダニ」に咬まれたことにより感染する病気

○重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

SFTSを保有にしているマダニに咬まれることにより感染する病気で、西日本を中心に発生が報告されており、島根県でも平成25年7月に初めて発生が確認されています。

益田保健所管内(益田市・津和野町・吉賀町)ではこれまでのところ発生の報告はありません。

- ・主な症状：発熱、消火器症状（嘔吐、下痢）で、重症化し、死亡することもある。
- ・潜伏期間：マダニに咬まれてから6日から2週間。

○日本紅斑熱

島根県では島根半島、特に弥山山地で発生がみられています。

- ・主な症状：発熱（高熱）、頭痛、関節痛、体幹部や手足の発疹。死亡することもある。
- ・潜伏期間：マダニに咬まれてから2日～10日。

※マダニではありませんが、ダニの一種であるツツガムシによって媒介される「ツツガムシ病」などもあり、症状は日本紅斑熱とよく似ており、感染してから5日～2週間で発症します。

感染しないための予防策は？

農場での活動時や森林、草むら、藪などマダニが多く生息するような場所に入る場合は 長ズボン、長袖、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしましょう。

手袋をしたり、首にタオルを巻くなどの予防もいいでしょう。

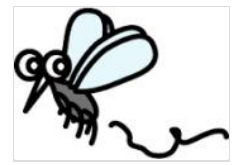
虫よけスプレー（成分にDEEP含むもの）の中には服の上から用いるタイプのものがあり、補助的な効果があるようです。特に 農場での活動後はダニに咬まれていないか全身を確認しましょう。 ※咬まれたことに気付かない人も多い。

マダニに咬まれた場合には

すべてのマダニがウィルスを保有しているわけではありません。慌てて振り払ったりせず、落ち着いて対処しましょう。マダニ類の多くは人や動物に取りつくと、皮膚にしっかり口器を突き刺し、長時間（数日～10日間）吸血します。 無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるため、そのままの状態では医療機関へ受診し処置してもらう必要があります（皮膚科もしくは外科）。

また、マダニに咬まれた後に、発熱、食欲不振、嘔吐等の症状があった場合は早めに医療機関を受診しましょう。

蚊に刺されないようにしましょう!! ~デング熱について~



●デング熱とは・・

デングウィルスを病原体とするデング熱は、東南アジアなどに広く分布し、流行地域全体で年間約1億人の患者が発生しています。日本国内で感染した例は、過去60年以上報告されていませんでしたが、2013年には、ドイツ人渡航者が日本で感染したと疑われる事例が報告されました。また、2014年8月から10月にかけて、日本国内で感染した160名の患者発生が報告されています。

●どこから感染する？

ウィルスを保有した蚊（ヤブカ類）に吸血された際に感染します。人から人への直接感染はないが、人→蚊→人の経路で感染が拡大します。（デングウイルス感染者が、他の場所で蚊に吸血されると、その蚊がウィルスを保有し媒介となり、感染場所が拡大。）

症 状 ・ 治 療

- ・ 潜伏期間は2～15日（多くは3～7日）
- ・ 突然の発熱（2～7日間続き、一度下がるがまた上がる経過をたどることが多い。）
- ・ 激しい頭痛、目の奥の痛み、関節痛、筋肉痛。
- ・ 熱が下がったところに胸部、体幹から発疹が出はじめ、手足や顔面に広がる。
- ・ 通常は1週間程度で回復し、症状がなくなった後の経過は比較的良好。
- ・ ごくまれに熱が下がる頃に出血傾向（点状出血・鼻血・血便など）を起こすことがあり、重症化すると吐血や下血、ショック症状を起こし死亡することもある。（デング出血熱）
- ・ 特異的な治療法、有効な抗ウイルス薬はなく、対症療法が主体となる。



発熱直後はカゼなどに見分けがつきにくいですが、熱が何日も続いて目の裏が痛い場合はデング熱の恐れがあります。また、解熱後も倦怠感が続き、食欲がなく水も飲めないといった場合は受診した方が良いでしょう。

予 防

ワクチンはないため、蚊に刺されないようにすることが一番の予防方法です。

○長袖、長ズボンを着用するなど、屋外の作業において、肌の露出をなるべく避ける。

また、虫除け剤等を使用し、蚊を寄せ付けないようにする。

○室内の蚊の駆除に心がける。

○蚊の幼虫の発生源を作らないように注意する。

（蚊は水辺に産卵する。下水溝、廃タイヤの中や水桶等の人工的な環境下においても産卵し、増殖する。）

○デング熱の症状が現れた場合は、速やかに医療機関に受診するように。



聞きなれない感染症ほど、不安が先立ちますが、まずは正しい知識を持つこと！次に、自分たちには関係ないと思わず、予防に努めること！が大切です。

もっと詳しく知りたい人は、「厚生労働省 デング熱Q&A」を調べてみてください。